

令和 4 年 9 月 14 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00712

研究課題名（和文）地下文書論による中世文字史料研究の再構築

研究課題名（英文）Reconstructing the Study of Medieval Written Historical Sources by the "Jige Monjo" Theory

研究代表者

春田 直紀（HARUTA, Naoki）

熊本大学・大学院人文社会科学部（文）・教授

研究者番号：80295112

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,390,000円

研究成果の概要（和文）：地下文書とは、「地下」と呼ばれる地域の諸階層が伝えた文書群を包括的にとらえた概念である。本研究では、東国諏訪の社家・四国山地の名主荘官家・九州肥後の大百姓家など地域も伝来主体も異なる文書群を検討するなかで、地下文書の多様性を列島規模で把握しつつ、文書群がさまざまな階層の縦・横の関係のなかで集積され伝来していった様相を明らかにした。また、国別に地下文書と銘文史料のデータを網羅的に集積し分析することで、中世「地下」社会における文字史料のあり方を一国レベルで浮かび上がらせることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一の意義は、古文書学の枠組みを超えた文字史料研究の探究にある。本研究では、地下文書を上級権力の文書リテラシーが下降・変質したものと見る見方を退け、文書を利用した当事者の視点から、地下文書の作成作法や機能のあり方を跡づけた。第二の意義は、紙の文書と銘文史料の統一的理解。両者の相互関係を追究することで、地下社会のメディアとリテラシーを総体として論じる道を拓いた。第三の意義は、史料論から見た中世における列島規模での地域間比較。今までの研究は畿内近国に偏っていたが、本研究では全国にフィールドを設定することで、地下文書の階層的広がりや、紙の文書と銘文史料の分布比率などの地域的偏差を浮き彫りにした。

研究成果の概要（英文）："Jige Monjo" is a concept that comprehensively captures the group of documents transmitted by various strata of the region called "Jige". In this study, while examining document groups with different regions and Document holder, such as the family of the priest of Suwa in eastern Japan, the family of the manor viceroy of the Shikoku Mountains, and the family of large-scale farmers of Higo in Kyushu, we grasped the diversity of "Jige Monjo" on a Japanese archipelago scale, and clarified the aspect in which the documents were accumulated and transmitted in the vertical and horizontal relationship of various hierarchies. In addition, by comprehensively collecting and analyzing data on "jigemonjo" and inscription historical materials in "kuni" units, we were able to clarify the state of written historical materials in the medieval "jige" society at each "kuni" level.

研究分野：日本中世史

キーワード：地下文書論 中世文字史料研究 銘文史料 諏訪の社家 四国山地の名主荘官家 肥後の大百姓家 文書リテラシー 原本調査

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) **古文書学と銘文研究の乖離**：文字が記述される素材の多様性は伝統的な古文書学でも認識されていたが、多くの論者は木札の銘文や金石文は例外的とみなし、それらを中世文書の体系の中に位置づける方向性は見られなかった。なぜならば、古文書学は文書の様式が示す機能を軸に、各時代の文書体系とその展開の解明を主要な課題とし、素材・形態への関心は低かったからである。一方、紙以外の様々な素材に記された銘文の研究では、寄進状と寄進札、置文と制札、願文と棟札・仏像・梵鐘・厨子などの銘文、起請文と起請文木簡のように、紙媒体の文書と対応する様式の銘文が多く扱われている。それにも関わらず古文書学と銘文史料論との統一的理解が進展しなかった一因は、公権力が発給した権利文書の変遷を基軸に構築された古文書学の枠組みに求められよう。寄進状・置文・願文・起請文といった文書はいずれも、場と密着した性格をもつという点で、統治の回路で機能した権利文書とは異なる特徴を有するからである。

(2) **地下文書論の提起**：そもそも公権力の発給文書を基準にした古文書学の様式論では、荘園・公領の現地(地下)に残された文書の多くがイレギュラーな文書とみなされ、正当に評価されないという問題があった。また、古文書学で在地の文書は荘園文書+惣村文書の枠組みでしか把握されていなかった。そこで、地域社会を構成する多様な社会集団が作成・管理した文書のあり様をトータルに把握する分析概念として私たちが定立した研究用語が地下文書である。地下文書概念による研究成果を集成した春田直紀編『中世地下文書の世界 - 史料論のフロンティア』(勉誠出版、2017年)に基づき地下文書研究の成果と課題を確認しておこう。

成果としては、史料用語としての「地下文書」の意味と成立を確定した上で、地下文書独自の様式展開、地下での文書作成の作法と執筆者、地下における文書の機能・役割、地下文書の保管形態、地下文書の二次的機能による伝来といった諸点が解明され、従来の古文書学の発想では解けない中世地下文書の全体像が浮かび上がったことが指摘できる。

(3) **残された課題**：残された課題は以下の三点である。一点目は、「諸階層の文書群が織りなす地下文書の全体像」を明らかにすること。地下文書成立の背景には書面を扱う社会階層の拡大があり、その結果、地域社会の諸階層間で文書・帳簿が重層的に作成されるが、前掲『中世地下文書の世界』では特定の史料類型か一つの文書群に即した論考が大半で、地下文書群の階層性についての論究は乏しい。二つ目の課題は列島規模での地域差の問題である。地下文書が成立する条件には地域差があり、その条件により地下文書の成立時期も大きく異なると予想される。ところが、前掲書の諸論考では地下文書の残存率が高い畿内近国の文書が多く取り上げられ、そこで得られた知見が列島の他地域でどの程度妥当するか検証されていない。三点目は、地下文書は中央の公権力文書を基準とした古文書学の枠組みでは解けないとして、それでは地下の現場における文書生成・機能の固有の論理とは何かという問題である。この問いを追究していくためには、紙媒体の文書に限らず金属・石・木・陶器などあらゆる素材に記された文字史料を統一的に理解していくことが課題となる。地下の社会では紙の文書であれ、金石文や木札の銘文であれ、場と密着しながら、文字列情報の機能に最適な素材がフレキシブルに選択されたと考えられるからだ。このように、地下文書論の射程を階層的重なり・列島規模での地域性・文字史料の総体にまで伸ばすことが、次なる課題となる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地下文書論の視点と方法に基づき、中世における銘文史料も含めた文字史料のあり方(作成・様式・形態・機能・保管・伝来)と史料群の構成・重なりを、日本列島規模での地域差にも注目しながら明らかにしていくことにある。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、全国を4ブロックに分けた地域班を設けて原史料の調査を実施するとともに、一国別中世地下文書・銘文史料目録を作成し、中世文字史料の多様性を日本列島規模で把握していく。

(1) 地域班の編成と原史料の調査による研究の推進

東国班、畿内近国班、中国四国班、九州班という4つの地域班を設定し、地下文書(紙媒体)の原本調査に加え、関連する銘文史料も実見し、各地域における史料のあり様を立体的に復原していく。原本調査では料紙・筆墨・筆跡・花押・印章・封式・寸法など文書形態に関する記録をとる。地下文書を一点ごと即物的に観察することで、地下特有の紙の使い分けや文書の形態と機能との関連に踏み込んだ検討が可能となる。また、同一地域で文書群の相互比較や紙文書と銘文史料とのつきあわせも行う。

(2) 一国別中世地下文書・銘文史料目録の作成

各地域班でいくつかの国を選んで、一国別中世地下文書・銘文史料目録を作成する。対象は、原則国人級以上の武家文書と有力寺社文書とを除く、都道府県内の伝来史料とする。項目は、年号、史料名、内容概略、出典、刊本、袖判、花押・略押、筆軸印、差出、宛所、人名、地名、形態・状態、備考とし、既存の史料集より該当データを入力していく。以上の方針により作成した史料目録をもとに、一国単位で中世の地下文書・銘文史料の特徴を 世紀別、地域別、階層別、文書様式別に見出していく。

4. 研究成果

まず、地域班別に研究成果を示していきたい。

(1) **東国班**：2019年9月に長野県諏訪市と茅野市で諏訪社の社家文書群を対象にした合同調査を実施した。本調査では、事前に信濃国諏訪中世史料目録を作成して文書群のあり様を概観し、また中世の諏訪氏・大祝家に関する研究報告会（報告者は縄野響子氏と百瀬頭永氏）、調査対象とする文書の事前検討会を開催したうえで、諏訪市博物館で大祝家文書と矢島家文書、神長官守矢史料館で守矢家文書の原本調査を行った。この調査にもとづく研究成果は、2020年12月20日の第11回中世地下文書研究会（オンライン開催）で発表された。この研究会では、岩永紘和氏が「大祝家文書・矢島家文書」原本調査報告、金澤木綿氏が「守矢家文書」原本調査報告、佐藤雄基氏が「守矢家文書」における鎌倉時代の文書、湯浅治久氏が「戦国期の諏訪社造営と「先例」管理 地域権力と地下文書の接点」という題目で研究報告し、村石正行氏のコメントの後全体討論も行った。岩永・金澤両報告では、未翻刻の史料が紹介されるとともに、社家が相互に家蔵史料の写本をつくり、相伝しあう関係が明らかにされた。佐藤報告では、鎌倉時代の特定の年紀をもつ文書を書写する意味が諏訪社の由緒との関係で検討された。湯浅報告では、地方権門寺社の史料から社家の家文書として地下文書の生成が認められるのが東国の特徴として、この地下文書の生成・展開に地域権力が介在した具体相が提示された。

(2) **畿内近国班**：神奈川大学国際常民文化研究機構の奨励研究「熊野水軍小山家文書の総合的研究」と連携して、紀伊国に重点をおいた調査・研究を推進した。2018年11月と2019年3月に和歌山県立博物館で久木小山家文書の原本調査、2019年6月に和歌山市立博物館で林家文書の原本調査、2018年11月と2019年2月に日置川流域で現地調査、2019年3月に古座川河口部で現地調査、2019年12月に熊野三山周辺地域で文書調査・現地調査、2020年1月に白浜町で現地調査をそれぞれ実施し、成果をあげた。以上の調査にもとづく研究成果は、2021年1月23日の国際常民文化研究機構第7回共同研究フォーラム「中世熊野の海・武士・城館」（オンライン開催）で発表された後、2021年3月に成果報告書『熊野水軍小山家文書の総合的研究』（『神奈川大学日本常民文化研究所調査報告』第29集）が刊行された。同報告書には資料編に久木小山家文書・神宮寺小山家文書・善妙寺文書・西向小山家文書・二部小山家文書・熊野水軍関係文書の翻刻と解題が掲載された。また、論考編には、小山氏の本拠と熊野の武士たちの海域での活動を論じた坂本亮太「総論 熊野水軍小山家文書の総合的研究 熊野の海域史・序論」、熊野那智の色川文書所収「後南朝文書」の受容過程に迫った呉座勇一「色川文書」所収の忠義王文書に関する一考察「受容過程を中心に」中世における紀州海辺部の様相を俯瞰した春田直紀「浦方以前 紀州海辺部の中世的様相」、文書群形成という視点で比較対象となる土佐安芸文書を取りあげた村上絢一「土佐国大忍庄「安芸文書」の成立過程」が収録されている。

なお、2020年3月には『中世惣村の現在 近江国今堀故地の現地調査』（『琵琶湖博物館研究調査報告』32号）が刊行されたが、これは本科研グループのメンバーも参加した今堀郷故地（滋賀県東近江市）現地調査の成果報告書で、今堀日吉神社社務所保管文書と今堀町自治会長引継文書の全容を初めて紹介している。

(3) **中国四国班**：2019年3月にオーテピア高知図書館で行宗文書、高知県立歴史民俗資料館で柳瀬文書の原本調査を実施した。また、両文書に関連する大忍荘故地の現地も踏査し、石碑銘文の実見等も行った。なお、高知調査に先立ち大忍荘関連史料の目録を作成し、調査に活用した。本調査にもとづく研究成果は、2019年10月14日の第10回中世地下文書研究会（大阪市立総合生涯学習センター）で発表された。この研究会では、村上絢一氏が「柳瀬家文書」原本調査結果を論じて近世の文書書写に及ぶ、荒田雄市氏が「行宗文書の原本調査成果について」、楠瀬慶太氏が「行宗文書の地名現地比定と室町・戦国期の土地開発」、濱田眞尚氏が「大忍荘域の中世石造物について」という題名で報告した。さらに2021年1月29日の第12回中世地下文書研究会が「四国における中世地下文書の世界」というテーマでオンライン開催され、総論として、楠瀬慶太氏が「中世土佐の地下文書について」、長谷川賢二氏が「中世阿波の地下文書について」と題した報告で、土佐と阿波における中世地下文書の分布や特徴が示された。各論では、荒田雄市氏が「行宗文書について」、村上絢一氏が「土佐国の中世地下文書を考えるために」、菊地大樹氏が「中世阿波の金石文について」という報告を行い、また守田逸人氏が「讃岐の中世文書について」という題名で関連報告をした。これらの報告を通して、四国山地における名主荘官クラスの家を集積された文書群の伝来過程が近世まで射程に含めて明らかになるとともに、紙本文書と銘文史料の地理的分布状況も浮き彫りとなった。

(4) **九州班**: 2019年8月に熊本県あさぎり町生涯学習センターにおいて免田家文書の原本調査を行い、あわせてあさぎり町域で免田家文書所載地名の現地調査を実施した。本調査により、中世帳簿の原秩序が復原されるとともに、帳簿に記載された範囲の現地比定も可能となり、免田家文書を地域史料として活用するための基礎が築かれた。

2020年10月3日に、中世地下文書研究会九州班主催・熊本中世史研究会共催で、研究会「中世肥後の文字史料と地下社会」がオンラインで開催された。この研究会では、池松直樹氏と兒玉良平氏が「肥後國中世地下文書・銘文史料」概観」、春田直紀氏が「大百姓の文書と水利開発 舩田文書と現地の調査成果から」、廣田浩治氏が「地下文書論からみた中世の肥後～肥後国中部を中心に～」という題目で報告し、総合討論も行った。この報告・討論を通して、中世の肥後には村落共同体文書は存在しないが、大百姓文書の存在が注目されるとともに、地侍・土豪の文書は偏在すること、寺社文書や武家文書に含まれる地下文書もあわせて考察すべきこと、地下の文字史料としては銘文史料が先行する地域が少なくなく、その地域では銘文史料により地下社会のあり方が復原されなければならない点などが確認された。

次に、史料目録の作成状況について述べる。

(5) **一国別中世地下文書・銘文史料目録**: 東国では駿河と遠江、畿内近国では和泉と紀伊、中国四国では土佐、九州では肥後を対象に、一国単位で中世地下文書・銘文史料の網羅的な史料目録を研究協力者の協力を得て作成した。まだ作成途中の目録も多く、完成・公表の段階には至っていないが、目録にもとづいた検討結果の一例を示すと以下の通りである。肥後北部に関しては、地下文書は16世紀に集中し、銘文は13世紀以前のものがある。地域は玉名郡に多く現存し、発給者は武家が多く、受給者は寺社(僧・社司など)が多く、銘文の支持体は五輪塔・仏像・梵鐘・板碑など多岐に渡るといった地域特性が抽出された。

本科研では最新の研究論集の合評会も行き、研究方法や論点の深化に努めた。

(6) **合評会**: 2019年6月16日に立教大学で「シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える」を主催した。2018年に刊行された園部寿樹著『日本中世村落文書の研究』と春田直紀著『日本中世生業史論』の合評会で、園部著書については高橋傑氏、坂田聡氏、富善一敏氏が、春田著書については朝比奈新氏、熱田順氏、田村憲美氏、寺田浩明氏がそれぞれコメントし、著者からのリプライもされた後、中世の地下文書のあり方とそれが形成される基盤となった生業構造に関して討論が行われた。

2021年7月24日にオンラインで「『古文書の伝来と歴史の創造』合評会」を主催した。春田直紀氏と佐藤雄基氏が丹波国山国荘の地下文書に関する研究成果を検討した報告を行い、地下文書の伝来と由緒創造との関係などに関する論点について議論した。

2021年9月25日にオンラインで「『祖谷山舊記・忌部神・予章記考』合評会」を主催した。2020年に刊行された丸山幸彦氏の論文集の合評会で、町田哲氏、呉座勇一氏、佐々木紀一氏が分担して書評報告を行い、四国山地の地下文書や由緒書に関する丸山氏の研究内容を検討した。

その他個別の研究成果は以下の通りである。

(7) **研究発表**: 2018年6月2日・3日に立教大学で開催された第8回中世地下文書研究会では、園部寿樹氏が「村落定書の源流 注置状と置文」、村上絢一氏が「(中間報告) 饗料・腰差・酒肴請取状」の検討、熱田順氏が「在村寺社の経営と村落自治 紀伊国柏原村を事例に」、小川弘和氏が「篠原系図と田浦系図 改変系図写の史料批判と活用の試み」と題する報告を行った。また、第9回中世地下文書研究会は2018年10月15日、京都市の機関紙会館で開かれ、大村拓生氏が「久多荘における売券と署判」、服部光真氏が「大和国霊山寺所蔵寄進札の史料的性質」、小橋勇介氏が「『地下文書』を伝える家に関する一考察 向井家文書と林家文書を事例に」という題目で報告し、議論を深めた。

最後に、本研究課題の成果について総括し、今後の展望について述べる。

(8) **総括と展望**: 中世の地域社会で生成・機能した文書に関する研究は、中世後期の畿内周辺に偏在する「惣村文書」を中心に構築されてきた。本科研では、東国(諏訪)の社家、四国(土佐)の名主荘官家、九州(肥後)の大百姓家など、地域・伝来主体とも多様な文書群を調査した。また、一国単位での中世地下文書・銘文史料目録も作成した。その結果、地下文書の多様性を日本列島規模で把握しつつ、文書群が諸主体の縦・横の相互関係のもとに重なりを成しつつ形成・伝来される様相を明らかにした。かくして「中世地下文書の世界」は確かな姿を現すとともに、その多様な世界のなかで「惣村文書」は地域・伝来主体とも限られる一類型として相対化された。地下文書の多様性は、それを形成・伝来した中世地域社会の諸主体の「惣村」のみには収斂されない多様性にほかならない。そして、それを「雑多さ」の認知にとどめず、個々の文書群と形成・伝来主体の動態を跡づけつつ、多様性の要因を説明できるような総合を果たすこと、換言すれば中世日本の地下文書と地域社会の総合的把握が、今後目指すべき課題であるといえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計65件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 49
2. 論文標題 村落内部文書と名主座村落	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告	6. 最初と最後の頁 27～56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 884
2. 論文標題 筆軸と木印	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 43～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝比奈 新	4. 巻 1015
2. 論文標題 中世荘園の成立・変容と村落	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 44～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥 雄一	4. 巻 1015
2. 論文標題 中世荘園制の終焉と村落の自治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 53～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 亮太	4. 巻 298
2. 論文標題 惣村研究の現在地－日本中世後期村落史研究の新展開－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 3～20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 絢一	4. 巻 298
2. 論文標題 中世土地制度史・中近世移行期村落論・在地文書伝来論への認識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 66～84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熱田 順	4. 巻 298
2. 論文標題 中近世移行期における地域秩序の変容と村落－丹波国山国地域を題材に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 32～65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩永 紘和	4. 巻 876
2. 論文標題 法泉寺に残る四通の中世後期・近世初期古文書写	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 56～63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 窪田 涼子	4. 巻 122(11)
2. 論文標題 室町期荘園における寺社と地下ー若狭国太良荘の事例からー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 123 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 絢一	4. 巻 91
2. 論文標題 「任官料足請取状」(「饗料腰差酒肴」請取状)の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 38 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥 雄一	4. 巻 48
2. 論文標題 「惣」の用法と意味ー補集合の「惣」ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 54 ~ 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 3737
2. 論文標題 中近世移行期畿内近国村落における売券の書札体化についてー近江国・和泉国の事例を中心にー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 米沢史学	6. 最初と最後の頁 67 ~ 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎原 雅治	4. 巻 93
2. 論文標題 高山寺所蔵の二つの「神尾山一切経蔵領古図」と丹波国野口庄	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 2~13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002001103	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 亮太	4. 巻 29
2. 論文標題 総論 熊野水軍小山家文書の総合的研究ー熊野の海域史・序論ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告	6. 最初と最後の頁 15-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 呉座 勇一	4. 巻 29
2. 論文標題 「色川文書」所収の忠義王文書に関する一考察ー受容過程を中心にー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告	6. 最初と最後の頁 115-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 春田 直紀	4. 巻 29
2. 論文標題 浦方以前ー紀州海辺部の中世的様相ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告	6. 最初と最後の頁 131-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上 絢一	4. 巻 29
2. 論文標題 土佐国大忍庄「安芸文書」の成立過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告	6. 最初と最後の頁 151-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 亮太	4. 巻 29
2. 論文標題 解題 紀州小山家文書-久木小山家文書を中心に-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告	6. 最初と最後の頁 179-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 36
2. 論文標題 中世村落における小領主と宮座 畿内・南九州及び東国の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 米沢史学	6. 最初と最後の頁 79-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯浅 治久	4. 巻 852
2. 論文標題 戦国史研究における地域社会の描き方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川 弘和	4. 巻 187
2. 論文標題 二見園田一族と相良氏領国	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州史学	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎原 雅治	4. 巻 865
2. 論文標題 文禄五年豊後地震に関する文献史学からの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 18-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥 雄一	4. 巻 845
2. 論文標題 あらためて村落とは何か 大山喬平・三枝暁子編『古代・中世の地域社会』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 56-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝比奈 新	4. 巻 866
2. 論文標題 領域型荘園の成立時期をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 雄基	4. 巻 80-2
2. 論文標題 趣旨説明：付・報告要旨 (<特集一>日本中世の「地下」社会：園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富善 一敏	4. 巻 80-2
2. 論文標題 園部寿樹『日本中世村落文書の研究：村落定書と署判』から考えたこと：近世(文書管理)史の側からみて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朝比奈 新・熱田 順	4. 巻 80-2
2. 論文標題 書評・春田直紀『日本中世生業史論』(岩波書店、二〇一八年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺田 浩明	4. 巻 80-2
2. 論文標題 生業の権利化の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 36-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 呉座 勇一	4. 巻 56
2. 論文標題 中世熊野と戦乱 文学と歴史のあいだ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 軍記と語り物	6. 最初と最後の頁 4-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 亮太	4. 巻 56
2. 論文標題 熊野水軍と紀州小山家文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 軍記と語り物	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 47
2. 論文標題 【史料紹介】紀伊国林家文書にみえる村落定書について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 35
2. 論文標題 中世村落における生活規制について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 米沢史学	6. 最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎原 雅治	4. 巻 9
2. 論文標題 歴史資料の共有化とデータ連携・利活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間文化研究情報資源共有化研究会報告集	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 一樹	4. 巻 901
2. 論文標題 歴史研究最前線(84)新たな荘園研究が問いかけるもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 雄基	4. 巻 87
2. 論文標題 「中国古文書学」の胎動と日本古文書学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 62-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥 雄一	4. 巻 989
2. 論文標題 日本中世村落の「排除」と「共生」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝比奈 新	4. 巻 69-6
2. 論文標題 伊勢神宮の荘園支配と村落の再編	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 19-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熱田 順	4. 巻 43
2. 論文標題 「村中」形成の背景と歴史的意義 - 紀伊国相賀荘柏原村を事例に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央史学	6. 最初と最後の頁 63-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 亮太	4. 巻 26
2. 論文標題 資料紹介 橋口家資料	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山県立博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 絢一	4. 巻 17
2. 論文標題 山城国久多郷(京都市左京区久多)の中世地名と名・垣内・屋敷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史文化社会論講座紀要	6. 最初と最後の頁 49-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上 絢一	4. 巻 102-4
2. 論文標題 中世後期における近江国葛川の領有体系	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 629-650
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/shirin_102_629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯浅 治久	4. 巻 172
2. 論文標題 武州白旗一揆の展開と在地社会の変動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 多摩のあゆみ	6. 最初と最後の頁 54-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川 弘和	4. 巻 130
2. 論文標題 鎮西相良氏の惣領制と一揆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 34
2. 論文標題 村落定書の源流 注置状と置文	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 米沢史学	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部 寿樹	4. 巻 46
2. 論文標題 『日本中世村落文書の研究』その後	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山形県立米沢女子短期大学生活文化研究所報告	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 亮太	4. 巻 25
2. 論文標題 熊野那智御師 旧宝蔵院所蔵史料 補遺	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山県立博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 55-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎原 雅治	4. 巻 818
2. 論文標題 連鎖する開発と災害	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熱田 順	4. 巻 670
2. 論文標題 『丹波国山国荘史料』・『丹波国黒田村史料』の史学史的意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計67件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 佐藤 雄基
2. 発表標題 書状を手にした武士たち 鎌倉幕府判決文書から探る文書実践ー
3. 学会等名 国際シンポジウム「中世社会と書状 文書実践の日欧比較ー」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 楠瀬 慶太
2. 発表標題 中世土佐の地下文書について
3. 学会等名 第12回中世地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒田 雄市
2. 発表標題 行宗文書について
3. 学会等名 第12回中世地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 土佐国の中世地下文書を考えるために
3. 学会等名 第12回中世地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川 賢二
2. 発表標題 中世阿波の地下文書について
3. 学会等名 第12回中世地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊地 大樹
2. 発表標題 中世阿波の金石文について
3. 学会等名 第12回中世地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 守田 逸人
2. 発表標題 讃岐の中世文書について
3. 学会等名 第12回中世地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 園部 寿樹
2. 発表標題 村落内部文書について
3. 学会等名 山国荘科研費研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 朝比奈 新
2. 発表標題 中世荘園の成立・変容と村落
3. 学会等名 歴史学研究会大会 中世史部会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 似鳥 雄一
2. 発表標題 中世荘園制の終焉と村落の自治
3. 学会等名 歴史学研究会大会 中世史部会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣田 浩治
2. 発表標題 駿河の中世郷村と地下文書
3. 学会等名 静岡県地域史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 町田 哲・呉座 勇一・佐々木 紀一
2. 発表標題 書評『祖谷山舊記・忌部神・予章記考』
3. 学会等名 『祖谷山舊記・忌部神・予章記考』合評会（中世地下文書研究会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 春田 直紀・佐藤 雄基
2. 発表標題 書評『古文書の伝来と歴史の創造』
3. 学会等名 『古文書の伝来と歴史の創造』合評会（中世地下文書研究会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 春田 直紀
2. 発表標題 「大首家文書」の魅力ー若狭の海村文書が語る700年の歴史
3. 学会等名 わかはく講座（福井県立若狭歴史博物館）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 春田 直紀
2. 発表標題 大百姓の文書と水利開発 舩田文書と現地の調査成果から
3. 学会等名 中世地下文書研究会（中世肥後の文字史料と地下社会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池松 直樹・兒玉 良平
2. 発表標題 「肥後國中世地下文書・銘文史料」概観
3. 学会等名 中世地下文書研究会（中世肥後の文字史料と地下社会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣田 浩治
2. 発表標題 地下文書論からみた中世の肥後～肥後国中部を中心に～
3. 学会等名 中世地下文書研究会（中世肥後の文字史料と地下社会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩永 紘和
2. 発表標題 「大祝家文書・矢島家文書」原本調査報告
3. 学会等名 第11回中世地下文書研究会（諏訪ミニシンポジウム）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金澤 木綿
2. 発表標題 「守矢家文書」原本調査報告
3. 学会等名 第11回中世地下文書研究会（諏訪ミニシンポジウム）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤 雄基
2. 発表標題 「守矢家文書」における鎌倉時代の文書
3. 学会等名 第11回中世地下文書研究会（諏訪ミニシンポジウム）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 湯浅 治久
2. 発表標題 戦国期の諏訪社造営と「先例」管理 地域権力と地下文書の接点
3. 学会等名 第11回中世地下文書研究会（諏訪ミニシンポジウム）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 『歴史評論』845号（2020年9月）特集「中世村落史研究のフロンティア」を読む
3. 学会等名 第82回「ムラの戸籍簿」研究会例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 HUANG Xiaolong
2. 発表標題 Influencing Ritual and Economic Lives in Local Nenbutsu Communities: Head-Branch Temple Relationship in the Late Medieval Period
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本 亮太
2. 発表標題 紀州小山家文書の魅力と可能性
3. 学会等名 国際常民文化研究機構第7回共同研究フォーラム「中世熊野の海・武士・城館」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 コメント 土佐国「安芸文書」の事例紹介より
3. 学会等名 国際常民文化研究機構第7回共同研究フォーラム「中世熊野の海・武士・城館」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 傑
2. 発表標題 園部寿樹『日本中世村落文書の研究 村落定書と署判』をめぐって - 内容紹介及び中世前期・荘園研究からみて
3. 学会等名 シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田 聡
2. 発表標題 園部寿樹の中世村落史研究と村落文書論
3. 学会等名 シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富善 一敏
2. 発表標題 園部寿樹『日本中世村落文書の研究 村落定書と署判』から考えたこと 近世(文書管理)史の側からみて
3. 学会等名 シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朝比奈 新・熱田 順
2. 発表標題 書評・春田直紀『日本中世生業史論』（岩波書店、二〇一八年）
3. 学会等名 シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村 憲美
2. 発表標題 中世前期地域社会論から「生業史論」を読む 春田直紀『日本中世生業史論』から学んだ論点
3. 学会等名 シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺田 浩明
2. 発表標題 生業の権利化の視点から
3. 学会等名 シンポジウム 日本中世の「地下」社会 園部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉座 勇一
2. 発表標題 中世熊野と戦乱
3. 学会等名 軍記・語り物研究会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本 亮太
2. 発表標題 熊野水軍と紀州小在家文書
3. 学会等名 軍記・語り物研究会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 「柳瀬家文書」原本調査結果を論じて近世の文書書写に及ぶ
3. 学会等名 第10回中世地下文書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒田 雄市
2. 発表標題 行宗文書の原本調査成果について
3. 学会等名 第10回中世地下文書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 楠瀬 慶太
2. 発表標題 行宗文書の地名現地比定と室町・戦国期の土地開発
3. 学会等名 第10回中世地下文書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 濱田 真尚
2. 発表標題 大忍荘域の中世石造物について
3. 学会等名 第10回中世地下文書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川 弘和
2. 発表標題 中世相良氏研究の現状と展望
3. 学会等名 2019年度熊本史学会春季大会シンポジウム「中世相良氏研究の最前線」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川 弘和
2. 発表標題 中世菊池氏の虚と実
3. 学会等名 熊本県立美術館特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤 雄基
2. 発表標題 Seals and Kao-Signatures in Medieval Japan (中世日本の印章と花押)
3. 学会等名 Symposium: Seals, Signature, and Sigillography in Medieval Eurasia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 春田 直紀
2. 発表標題 阿蘇でムラの歴史をさかのぼる
3. 学会等名 阿蘇サイエンスカフェ（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 似鳥 雄一
2. 発表標題 日本中世村落の「排除」と「共生」
3. 学会等名 歴史学研究会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 「饗料・腰差・酒肴」請取状の検討
3. 学会等名 日本古文書学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 比較からみた山国地域の文書と社会
3. 学会等名 山国文書研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園部 寿樹
2. 発表標題 村落定書の源流 注置状と置文、付：史料紹介 明応七年丹波国山国莊黒田下村の紛失定書二通
3. 学会等名 第8回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 (中間報告)「饗料・腰差・酒肴請取状」の検討
3. 学会等名 第8回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熱田 順
2. 発表標題 在村寺社の経営と村落自治 紀伊国柏原村を事例に、《サブ発表》 中近世移行期の山国莊に関する一考察 永禄九年「村重制札」によせて
3. 学会等名 第8回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川 弘和
2. 発表標題 篠原系図と田浦系図 - 改変系図写の史料批判と活用の試み -
3. 学会等名 第8回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本 亮太
2. 発表標題 熊野水軍小山家文書研究の現状と可能性
3. 学会等名 第1回「熊野水軍小山家文書の総合的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤 純一
2. 発表標題 日置川流域の文化財と安宅荘城郭群
3. 学会等名 第1回「熊野水軍小山家文書の総合的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北野 隆亮
2. 発表標題 紀伊半島における中世備前焼の流通
3. 学会等名 第1回「熊野水軍小山家文書の総合的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大村 拓生
2. 発表標題 久多荘における売券と署判
3. 学会等名 第9回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 服部 光真
2. 発表標題 大和国靈山寺所蔵寄進札の史的性質
3. 学会等名 第9回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小橋 勇介
2. 発表標題 「地下文書」を伝える家に関する一考察 - 向井家文書と林家文書を事例に -
3. 学会等名 第9回中世地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 土佐国大忍庄地下文書と「安芸文書」「柳瀬文書」の検討
3. 学会等名 中世地下文書研究会高知調査事前検討会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒田 雄市
2. 発表標題 行宗文書の検討
3. 学会等名 中世地下文書研究会高知調査事前検討会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 楠瀬 慶太
2. 発表標題 中世柳瀬名と行宗名の開発 史料と現地調査から探る村落景観
3. 学会等名 中世地下文書研究会高知調査事前検討会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 春田 直紀
2. 発表標題 惣村の環境デザイン ムラのなかの森づくり
3. 学会等名 新琵琶湖学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤 雄基
2. 発表標題 日本古文書和書状：从古代至中世紀
3. 学会等名 第七届“中国古文書学” 国際学術研討会（河北師範大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤 雄基
2. 発表標題 中世日本における書札様文書の広がり - 古代から中世へ -
3. 学会等名 歴博フォーラム第108回「日本の中世文書」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sato Yuki
2. 発表標題 Seals and Kao-signatures in medieval and early modern Japan
3. 学会等名 4th congress of the Asian Association of world Historians (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 絢一
2. 発表標題 中世菅浦の土地利用と山林資源
3. 学会等名 史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黄 霄龍
2. 発表標題 中世越前国滝谷寺をめぐる寺院ネットワーク
3. 学会等名 日本古文書学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 橋本 道範、春田 直紀ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 456
3. 書名 自然・生業・自然観	

1. 著者名 楠瀬 慶太、武内 文治、山崎 眞弓、田中 孝子、森下 嘉晴、山崎 徹、岡林 悠太、神田 修	4. 発行年 2022年
2. 出版社 奥四万十山の暮らし調査団	5. 総ページ数 135
3. 書名 続四万十の地名を歩く 高知県西部地名民俗調査報告書、津野庄・幡多庄故地現地調査報告 一	

1. 著者名 春田 直紀、小川 弘和、高橋 一樹ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 580
3. 書名 歴史的世界へのアプローチ	

1. 著者名 熱田 順	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 360
3. 書名 中世後期の村落自治形成と権力	

1. 著者名 湯浅 治久ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 中世武家領主の世界	

1. 著者名 菊地 大樹、湯浅 治久ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 250
3. 書名 寺社と社会の接点ー東国の中世から探るー	

1. 著者名 朝比奈 新、窪田 涼子ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 日本中世社会と村住人	

1. 著者名 河内 祥輔、小口 雅史、高橋 一樹、佐藤 雄基ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 儀礼・象徴・意思決定	

1. 著者名 秋山 哲雄、田中 大喜、野口 華世、佐藤 雄基ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 608
3. 書名 増補改訂新版 日本中世史入門	

1. 著者名 小川 弘和、稲葉 継陽ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 319
3. 書名 中世相良氏の展開と地域社会	

1. 著者名 坂田 聡、園部 寿樹、熱田 順、村上 絢一ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 380
3. 書名 古文書の伝来と歴史の創造	

1. 著者名 元木 泰雄、村上 絢一ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 424
3. 書名 日本中世の政治と制度	

1. 著者名 楠瀬 慶太、荒田 雄市ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 奥四万十山の暮らし調査団	5. 総ページ数 142
3. 書名 地域資料叢書21 土佐中東部の荘園故地を歩く 第1分冊	

1. 著者名 加納 靖之、杉森 玲子、榎原 雅治、佐竹 健治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 260
3. 書名 歴史のなかの地震・噴火	

1. 著者名 春田 直紀、渡部 圭一（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 滋賀県立琵琶湖博物館	5. 総ページ数 127
3. 書名 中世惣村の現在 近江国今堀郷故地の現地調査	

1. 著者名 湯浅 治久	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 224
3. 書名 中世の富と権力	

1. 著者名 高橋 一樹、佐藤 雄基（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 古文書の様式と国際比較	

1. 著者名 佐藤 雄基 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上海古籍出版社	5. 総ページ数 441
3. 書名 中国古文学研究初編	

1. 著者名 大村 拓生 (共著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学人文科学研究科	5. 総ページ数 138
3. 書名 河川をめぐる中世の政治権力と経済 イタリア (ヴェネト・トスカナ) と日本 (畿内)	

1. 著者名 春田 直紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 329
3. 書名 日本中世生業史論	

1. 著者名 園部寿樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 350
3. 書名 日本中世村落文書の研究	

1. 著者名 山内謙・小林昌二・鎌倉佐保・木村茂光・村上絢一・川端泰幸・花田卓司・三枝暁子・吉永隆記・谷昇・門井慶介・服部光真・伊藤哲平・松井直人・上川通夫・春田直紀・山本隆志・海老澤衷・大山 喬平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 544
3. 書名 古代・中世の地域社会	

1. 著者名 似鳥 雄一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 390
3. 書名 中世の荘園経営と惣村	

1. 著者名 小林一岳・蔵持重裕・朝比奈新・櫻井彦・渡邊浩貴・根本崇・窪田涼子・松本尚之・深谷幸治・則竹雄一・徳永裕之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 306
3. 書名 日本中世の山野紛争と秩序	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 雄基 (SATO Yuki) (00726573)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	園部 寿樹 (SONOBE Toshiki) (10202144)	山形県立米沢女子短期大学・その他部局等・教授 (41501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 弘和 (OGAWA Hirokazu) (10320417)	熊本学園大学・経済学部・教授 (37402)	
研究分担者	榎原 雅治 (EBARA Masaharu) (40160379)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	呉座 勇一 (GOZA Yuichi) (50642005)	国際日本文化研究センター・研究部・機関研究員 (64302)	
研究分担者	湯浅 治久 (YUASA Haruhisa) (70712701)	専修大学・文学部・教授 (32634)	
研究分担者	高橋 一樹 (TAKAHASHI Kazuki) (80300680)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	朝比奈 新 (ASAHINA Arata)		
研究協力者	熱田 順 (ATSUTA Jun)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	荒田 雄市 (ARATA Yuichi)		
研究協力者	池松 直樹 (IKEMATSU Naoki)		
研究協力者	岩永 紘和 (IWANAGA Hi rokazu)		
研究協力者	殷 捷 (YIN Hsiehi)		
研究協力者	大村 拓生 (OHMURA Takuo)		
研究協力者	金澤 木綿 (KANAZWA Yu)		
研究協力者	菊地 大樹 (KIKUCHI Hiroki)		
研究協力者	楠瀬 慶太 (KUSUNOSE Keita)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	窪田 涼子 (KUBOTA Ryoko)		
研究協力者	黄 霄龍 (HUANG Xiaolong)		
研究協力者	兒玉 良平 (KODAMA Ryohei)		
研究協力者	坂本 亮太 (SAKAMOTO Ryota)		
研究協力者	白石 博則 (SHIRAISHI Hironori)		
研究協力者	中澤 克昭 (NAKAZAWA Katsuaki)		
研究協力者	似鳥 雄一 (NITADORI Yuichi)		
研究協力者	長谷川 賢二 (HASEGAWA Kenji)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	廣田 浩治 (HIROTA Koji)		
研究協力者	村石 正行 (MURAISHI Masayuki)		
研究協力者	村上 絢一 (MURAKAMI Junichi)		
研究協力者	山岡 史 (YAMAOKA Humi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関